

## 〔さとうきび〕

### 1. 作付の概要

2008/2009年さとうきび年期の鹿児島県の収穫面積は9,762ha、前年比4.1%増で384ha増加した。作型では春植え22%、夏植え17%、株出し60%であり、夏植えがやや減少し、春植えと株出しの面積が増加した。品種の構成ではF177とNi17が減少し、代わって新品種Ni22およびNi23とNiF8の作付けが増加した。

沖縄県の収穫面積は12,406ha、前年比98.0%で、前年より減少した。作型では春植え12%、夏植え46%、株出し42%で、前年と比較すると夏植えが減少し、株出しの比率が約2%増加した。品種の構成ではF177、NiF8、Ni9、NiTn10が減少した。Ni15は収穫面積の24.4%でわずかに減少した。Ni17、Ni20、Ni21などの新品種の収穫面積も増加した。

分蜜糖工場の製糖は種子島で始まり（2008年12月5日）、種子島と沖永良部島で最も遅く終了した（2009年4月30日）。

### 2. 作柄の概況

鹿児島県熊毛地域では、夏季に極度の干ばつはなく、9月18日の台風13号による被害は軽微で、平年よりも高温で推移した9月から11月に8月以降の高温と多日照により生育は順調であった。この結果、単位収量は前年とほぼ同じ7,678kg/10aとなった。奄美地域では夏季に適度な降雨があり、干ばつを受けずに順調に生育した。また、台風の接近もなかった。この結果、原料茎長は平年に比べ2割～3割大きく、単位収量は7,199g/10aと前年比7.4%増となった。甘蔗糖度の県平均は14.4%で前年度とほぼ同じであった。分蜜糖の製糖歩留は12.4%で産糖量は前年より8.2%増加し、88,434トンとなった。

沖縄県では全般に4月から8月にかけて平年に比べて降水量が少なかったが、降雨量とその間隔が均等であったことから、極度の干ばつが発生しなかった。特に、沖縄本島北部や大東島地域では、7月こそ干ばつに過ぎたものの、8月以降の降雨が適度で、順調に生育した。台風は先島地域にのみ接近し、9月の台風13号および台風15号が八重山地域に襲来したが、被害は比較的軽微であった。極度の台風被害や干ばつがなかったことから、単位収量は沖縄本島地域で18.5%増、宮古地域で3.9%減、八重山地域で11%減、沖縄県全体では、6%増の7,109kg/10aであった。一方、甘蔗糖度は沖縄本島方面で前年並みの14.7%であったが、宮古地域と八重山地域では、前年より1.6～1.7高く、県全体では0.9高い15.3%であった。分蜜糖の産糖量は107,529tとなった。含蜜糖を含め、前年よりも11.5%多い223,093tとなった。

(九州沖縄農業研究センター バイオマス・資源作物開発チーム さとうきび育種ユニット 寺内方克)

2008/2009年期の鹿児島、沖縄両県のさとうきび生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収穫量 (ton)	甘蔗糖度 (%)	産糖量* (ton)	歩留り** (%)
鹿児島	08/09	9,257	9,762	7,323	714,881	14.4	88,434	12.4
	対前年比	96.9	104.1	105.6	110.0	99.4	108.2	98.4
沖縄	08/09	10,651	12,406	7,109	881,936	15.3	223,093	13.0
	対前年比	60.9	98.0	106.0	103.9	106.3	111.5	106.4
両県合計	08/09	19,908	22,168	14,432	1,596,817		311,527	
	対前年比	73.7	100.6	212.2	106.5		110.5	

\*：含蜜糖を含む生産量

\*\*分蜜糖のみの歩留り

平成20/21年期 さとうきび及び甘しゃ糖生産実績（鹿児島県、沖縄県）より抜粋、編集